

令和7年度 栄地区・萩見地区地域連携推進会議 議事録
共同生活援助事業所 りび・びれー

- ・開催日時 令和7年10月16日(木) 14:00~15:20
- ・場 所 栄地区GH内
- ・出席者 利用者 2名
利用者のご家族 2名
地域の関係者 2名
市町村の障がい福祉担当者 1名
社会福祉法人緑ヶ丘学園 常務理事 高橋清一
りび・びれー 課長 和田行平
- ・欠席者 福祉に知見のある人 1名
- ・議事録作成者 課長 和田行平

- 1 委任状の交付 地域連携推進会議構成員7名
- 2 開会の挨拶 社会福祉法人緑ヶ丘学園 常務理事 高橋清一
出席者の紹介 出席者7名(欠席者1名については和田から紹介)

3 地域連携推進会議の目的

GH設置の背景 障害者グループホームは、障害者が地域で自立した生活を送るための支援拠点として整備が進められてきました。背景には以下の要因があります。

- (1) ノーマライゼーション理念の普及
- (2) 入所施設から地域生活への移行促進
- (3) 障害者本人の自立支援
- (4) 家族の介護負担軽減
- (5) 地域社会との共生促進

制度的な位置づけ 令和6年度報酬改定により、グループホーム等で「地域連携推進会議」の定期開催が義務化されました。令和7年度からは必須となり、外部の目を取り入れることで事業運営の透明性を高め、支援の質を担保・向上させることが目的です。

具体的な目的

- (1) 利用者と地域との関係づくり(顔の見える関係を構築)
- (2) 地域住民の理解促進(障害者の生活や施設への理解を深める)
- (3) 施設運営の透明性・質の確保(外部評価を取り入れる)

(4) 利用者の権利擁護（意思決定支援を含む）

4 法人の施設概要

(1) 社会福祉法人緑ヶ丘学園の概要説明

- ・ 稚内はまなす学園（障害者支援施設）
- ・ ゆうらく（生活介護事業所）
- ・ サポート末広（就労継続支援 B 型事業所）
- ・ みる・み～る（緑ヶ丘学園生活支援センター）
- ・ りぶ・びれー（共同生活援助事業所：定員60名、12軒）

(2) りぶ・びれーの概要

1) 入居状況

- ・ 栄地区 : 5軒25名
 - ・ 萩見地区 : 2軒10名
 - ・ 声問地区 : 4軒21名（（重度障害・高齢者が多く夜勤職員配置）
 - ・ アパート型 : 1軒 4名
- 計60名 平均年齢53.8歳

2) 生活の様子

- ・ 費用：家賃：21,000～44,000円（自治体制度により最大月額1万円の補助あり）
- ・ その他：食費、日用品、町内会費、行事費、光熱水費、通院・外出付き添い、金銭管理など

(3) BCP（業務継続計画）

1) 自然災害時

- ・ 水・食料・薬・簡易トイレなどの備蓄
- ・ 家具固定、避難経路確認
- ・ 災害発生時の安否確認、避難誘導、行政・医療機関との連携

2) 感染症時（新型コロナウイルス対応含む）

- ・ 感染症予防委員会設置、3か月ごとに会議開催
- ・ 行政情報収集、手指消毒・換気・備蓄品確保
- ・ 職員・世話人・利用者への周知と研修

3) 防犯・防災訓練

- ・ 毎日：施錠確認、水回り・照明・投薬チェック
- ・ 年1回以上：消防署協力による防災訓練（スモークマシーン使用の実践的訓練を導入）

5 地域との連携

- (1) 栄地区：年2回清掃活動に職員・利用者が参加
- (2) 声問地区：職員が地域委員会や学校運営協議会に参画、地域行事にも定期参加

6 権利擁護と安全確保

- (1) 虐待防止委員会：年1回以上開催、事例共有、職員研修、専任担当者配置
- (2) 身体拘束適正化委員会：3か月ごと開催、原則禁止、3要件（切迫性・非代替性・一時性）のみ例外
- (3) 虐待チェックリスト：年4回実施、委員会で確認・聞き取り、虐待事案は現在までなし
- (4) 事故・ヒヤリハット報告：小さな異変も記録・共有し重大事故を予防、事業所の信頼性維持にも有効

7 質疑・応答

①Q1 地域でのイベントなどには参加されることはありますか？地域のお祭りなど。

A 個人で出かけられる方も沢山おり、他の地域のお祭りへも自転車に乗って出かけられる方もいたり、バスを利用して出掛ける方もいます。その他に行事としては情報提供をおこない、人数を募ってから計画書を作成し、実施することもあります。

②Q2 平日の日中は皆さんどこに行かれていますか？

A 平日9：30～15：30まで、就労継続支援B型事業所サポート未広や生活介護事業所ゆうらくへ行き、作業や活動をおこなっています。一般就労者も仕事へ行っています。

職員より【利用者】へグループホームのいい所はと質問し、「土・日に買い物へ出掛けられること」と返答がありました。その他に土曜、日曜は買い物や地域生活支援事業所なども利用し、余暇を過ごされていることを説明しています。

③Q3 仕事は何をしていますか？

A 「みみとり」と利用者より返答があり、サポート未広でおこなっているホタテのみみとみみ以外を分ける作業をおこなっていること、その他作業内容について職員より補足しています。

④Q4 グループホームの世話人は食事だけの業務ですか？

A 料理以外にも掃除や金銭管理、薬の管理などもおこなっています。料理については気温や食品の値段を見ながら考えて料理を提供しています。

⑤Q5 グループホームは全て個室ですか？

A 全部屋個室です。ゲームが好きな方もおり、居室内にはゲーム機が並べてあったりとそれぞれ利用者によって居室内も違ってきます。

⑥Q6 就労継続支援B型事業所へ行かれている人はいますか？

A サポート未広がB型事業所であり、通われている方もたくさんいます。

「GH前に大きなバスが停まっている所を何度も見たことがある」との話が地域関係者よりあり、職員より就労継続支援B型の送迎バスである事を伝えていません。

⑦Q7 ホーム内で大きなトラブルはありますか？

A 他人同士が暮らしているためトラブルはありますが、何かあった時は世話人や職員が介入し大きなトラブルに繋がらないように対応しています。また、居室編成にも気を配り対応しています。

⑧Q8 朝食や昼食はどうしていますか？

A 朝食は前日に世話人が用意してくれた物を朝に支援者で温めて提供しています。昼は就労継続B型事業所へ通っている方はそこで提供され、一般就労者のおかずは前日に世話人が作ってくれ、翌日はご飯を自分で入れて弁当を持参しています。

⑨Q9 ホーム内がオール電化であるが停電時はどうするのですか？

A 石油ストーブを用意しています。

見学をおこなわれた構成員の方々より、地域にグループホームがある事は何となく知っていましたが、ホーム内を見られて良かった。その他にも、誕生日会の時に外食していることも聞き、利用者さんを見ても笑顔でくらししているのが分かりました。世話人や職員のおかげだと思ふとの言葉を頂きました。